

サラサリンガの被害

〇はじめに

サラサリンガの被害が、平成 23 年より報告されるようになりました。サラサリンガは、幼虫がクヌギ、ナラ類、カシ類の葉を食害する蛾の仲間です。突発的に大量発生することで知られています。



写真-1 サラサリンガの成虫(右)と幼虫(左)

福島県内の森林被害は、1955 年に田村郡田村町(現在の郡山市田村)で発生しており、被害面積は、中害 2 町及び微害 1 町(1 町は約 1ha)で、本県初の被害として報告されています。しかし、この報告以降の被害事例は、確認できていません。

このように福島県内では、サラサリンガの被害事例が少ないため、分布域、被害の継続年数など、森林害虫としては不明な点が多い昆虫です。

〇現在の被害

平成 24 年現在、被害を確認した市町村は、福島市、伊達市、二本松市、本宮市、大玉村、郡山市、須賀川市、三春町、田村市、棚倉町、浪江町、

飯館村、葛尾村です。被害面積の違いはありますが、被害分布は広範囲にわたります。

被害樹種は、クヌギ、コナラ、ミズナラで、5 月上旬から 6 月中旬頃まで、食害被害が発生す



写真-2 食害を受けたコナラ[6月]



写真-3 葉が展開したコナラ[7月]

ることを確認しています(写真-2)。7 月頃には、被害を受けた樹木の葉が再度、展開し、被害が分からなくなってしまいます(写真-3)。

〇被害の特徴

福島県内で発生している広葉樹の代表的な森林害虫は、カシノナガキクイムシ、カツラマルカイガラムシ、そしてサラサリンガです。



写真-4 サラサリンガ食害跡



写真-5 カシナガ被害木



写真-6 カツラマル被害

サラサリンガの被害は、葉の食害です。葉柄(葉の根元)の付近は食害しないので、枝先には葉柄が残っています(写真-4)。

カシノナガキクイムシは体長 5mm 程の甲虫です。ミズナラ、コナラなどの幹下部に穴を掘り進み、菌を植え付けることで樹木を枯死させます。被害枯死木には、葉が萎れた状態で付いており、根元に穴から出た大量の木屑が積も

っています(写真-5)。

カツラマルカイガ

ラムシは 1~2mm の介殻を被っている昆虫です。クリ、コナラ、ケヤキのほか多くの広葉樹の枝などに寄生し、寄生部位から樹液を吸います。被害を受けた樹木は、枝枯れが発生し(写真-6)、枯死することもあります。

〇終わりに

サラサリンガとカツラマルカイガラムシの二重の被害が発生している地域が確認されています。今後も、注意深く被害経過を観察することが必要です。(森林環境部 蛭田、県中農林事務所 佐藤 ほか各農林事務所保護担当者)